



人権教育だより

～自分も仲間も大切にできる思いやりの心を育てよう！～

京丹後市立大宮中学校 **Excellent!**

令和2年 12月 17日

No.9



人権意見発表会 & 講演会



人権のつどい



第 I 部
意見発表特集

大宮中学校では、1学期は「いじめ」について、2学期は「LGBT」について学習しました。その学習での学びを、作文としてまとめました。その中から各学年を代表者に、自分の考えを発表してもらいました。そのあと『誰もが自分らしく生きる～LGBTQや多様な性を考える～』と題して、定政輝先生にお話をして頂きました。全校のみなさんにとっては、LGBT当事者のお話を聴くことで、それまでの学習が一層深まり、LGBTについて理解することにとどまらず、自分の生き方について、ひいては社会の在り方について考える機会となったことと思います。ほんの一部になりますが、どんなことを考え、そして学んだのかを紹介します。



1年生 岡本 ひより さん
「みんなちがってみんないい」

《発表の要旨》

心の性と身体の性、好きになる性。そのどれかが周りの人と違うだけで変わった目で見られるのはおかしいと思います。LGBTについて学習するまでは、LGBTなどの悩みは、恥ずかしいものだと思っていました。だけど、人にはいろいろあるのが

当たり前、LGBTも一つの個性だと思うようになりました。日本も海外のように、性について気軽に話せられれば、LGBTの人も悩みが少なく、暮らしやすい社会になると思いました。

LGBTへの差別をなくすには、LGBTについての知識を身に付けることが大切です。他にも、もし自分がLGBTで悩んでいたら、人に相談されたと、その人たちの立場になって考えることも大切だと思います。変に特別扱いはせず、みんなと平等に接するのが一番です。みんなちがって、みんないいのだから。

2年生 山添 望愛 さん 「人は自由にある」

《発表の要旨》

私は人権学習で、一人ひとりに自由があることを学びました。その自由とは、人それぞれの生き方があること。同性だとしても、自分が好きになった人を好きでいること。この二つを誰かが否定し、決めつけるべきではないと思いました。

☆裏面に続く



また、「普通」というのは、その人それぞれの基準があることを学びました。自分の「普通」を他の人に勝手に押し付けてはいけないと思いました。個性や生き方は、生きていく中でどんどん変化し、いろんなことを吸収して成長していくものだと思います。それを決めつけて壊してはいけないと思いました。私は固定観念にとらわれたり、偏った見方を決してせず、広い視野を持った生き方がしたいです。これからいろいろな人と関わっていく中で自分も自由でいたいし、人の自由も尊重できるようにになりたいです。

3年生 田中 淳子 さん 「誰もが暮らしやすい社会」

《発表の要旨》

「誰もが暮らしやすい社会ってなんだろう。」今まで人権学習で何度も何度も考えました。私は、LGBTのような少数といわれる人も含めて、誰もが暮らしやすい社会にするには、知る、認める、尊重するという三つのことが大切だと考えます。では、多数が少数を配慮して特別な態度をとることがよいのでしょうか。私はそう思いません。

一つ目は、一人ひとり個性をもっていて、感じ方、考え方は異なっているからです。個性の優劣を決めようと比べるのではなく、相手を知り、受け入れようという姿勢を大切にできたら、お互いに尊重し合える誰もが過ごしやすい社会に近づけると思います。二つ目は、一部の人にだけ特別な態度をとるということが、少数の立場の人を上から目線で見ていることのように感じるからです。必要な配慮はするが、フランクに関わる。これからの私たちに求められている力の一つだと思います。人はある意味では皆一緒に、ある意味では皆違います。不必要な区別をせず、誰もが一人ひとりとして見られるような世界になればきっと、誰もが暮らしやすい社会になると思います。そんな社会への一歩を踏み出せるよう、これからもっと他の人のことを知って、大切にしていきたいです



3年生 吉岡 桃奈 さん 『心の眼』で見る社会

《発表の要旨》

私は自分の経験を通して、障害者やその家族を取り巻く環境で大切にしたいことを見つけました。それは、「心の眼で見る」ということです。私の考える「心の眼で見る」とは、目から入る表面的なことや、事実だけで判断するのではなく、物事や人についてその背景に目を向けて深く考えることだと思います。心の眼で見ると、困っている人にとって必要なことが見えてきます。そして自分で考えて動くことができれば、誰もが生きやすい社会になると思いませんか。

また心の眼で見ることは、障害者と関わる人々にとっても大切になります。関わる人の負担や苦しさも問題になっています。周りの人の支援はとても大事です。大変そうの一言で終わらせず、がんばっているねと声をかけたり、理解しようとする姿勢をとってみるだけでも、周りが笑顔でいられる環境をつくる第一歩になると思います。障害を害のままで終わらせてしまうのか、個性として大切にされていくのか、あなたの「心の眼」にかかっています。

